



挑戦と
創造の
あかし

TEAM NEXT YONEZAWA



米沢牛の皮を活用 ブランド牛のSDGS

株式会社おとづき商店（城西）



▲おとづき商店の
取り組みはこちら

代表取締役の弟月千恵子さん。米沢牛の原皮を約70%使用したプレミアムモデルと、人工皮革を併用して高耐久・軽量化を図ったハイブリッドモデルの2種を開発。ブランド牛の革を使ったランドセルは国内初。

「牛革ランドセルを作りましたが、わたし革に全く興味がありません」。弟月さんの嘘偽りない一言に取材班は度肝を抜かれました。米沢牛の原皮を使ったランドセル開発秘話をお届けします。

焼肉屋で米沢牛に舌鼓を打っていた弟月さんは「米沢牛は食肉としては有名だけど、革製品は小物ですら見たことがない。皮はどこで使われているんだ？」と思いました。この疑問が、開発ストーリーの始発点でした。米沢牛の皮が安価で海外に輸出されていることを知ると「なぜなら」と「もったいない精神」のもと、牛革を米沢の新たな名産品とすべく始動。とは言え、おとづき商店は和装コートメーカー。革は全くの素人でしたが、これが逆に功を奏すことに。革製品業界内では言わずと知れた各企業に物怖じせず連絡を取り、自分は革の素人だが、米沢牛をもっと有効に使いたいとの思いを着飾ることなく伝えました。時はコロナ禍真っ只中。どの企業も明日どうなるか分からない中で新規の企画なんてやれない状況。しかし、弟月さんの熱意が伝わり次々と協力の声が上がりました。

数ある革製品からランドセルを選んだきっかけは、おとづき商店が布マスクを市内の学校に配り、そのお札に手紙をもらったこと。「国産の牛革のランドセルを多くの子どもたちに背負ってもらい、このランドセルの成り立ちを知ること、いろんな事を学びながら、未来ごとと背負ってほしい」との願いが込められています。米沢牛が有名になるきっかけとなったC・H・ダラス氏ゆかりの横浜で販売をしたいとの思いから、老舗百貨店(株)高島屋に販売を依頼。ブランド牛の副産物も余すことなく活用するSDGSの試みが新たな価値を生み出しました。

「米沢市役所 TEAM NEXT YONEZAWA」の取り組み

米沢市役所が取り組む米沢品質向上運動の具体的な取り組みとして、市役所への満足度調査「市役所あるあるアンケート」を募集しています。右の二次元コードから米沢市役所 TNY のページに進めますので、そちらのコメント欄に米沢市役所を利用してお気づきの点などをご記入ください。

関係各課で情報を共有し、より良い市役所を目指してまいります(原則としてコメントへの返信は行いませんのでご了承ください)。



TEAM NEXT
YONEZAWA

